



## 急性心筋梗塞の治療



日本人の死因の第2位は心疾患であり、心疾患による死亡の中で最も多いのが冠動脈疾患です。心臓は大動脈を通して全身に血液を送り、あらゆる臓器に酸素や栄養を送り届けています。一方、血液を送る心臓自身にも酸素や栄養を送らなければなりません。心臓への供給は、大動脈から分かれた冠動脈から行われます。冠動脈は左に2本、右に1本あり、心臓を出た血液はこの3本の血管で心臓に酸素や栄養を送った後、冠静脈を通じて再び心臓に戻ってきます。

冠動脈が血栓によって詰まり、心筋が壊死してしまった状態を急性心筋梗塞といいます。血栓とは、動脈硬化した血管の内皮が破れ、血液が血管内で固まってしまったものです。

急性心筋梗塞の治療はどのように行われるのでしょうか。急性心筋梗塞で急死するのは、壊死をきっかけに心筋

が細かなけいれんを起して全身に血液を送ることができなくなってしまう「心室細動」が起こるからです。この時はすぐAED(自動体外式除細動器)などを用いて除細動することが必要です。たとえば、心室細動を回避できても、壊死する部分は時間経過とともに広がっていきますので心臓の動きを守るためには発症からできるだけ早く、できれば6時間以内に詰まった血管を開く必要があります。一番多く行われているのは、詰まった血管を開いた後に、金属の針金で編まれたチューブ(ステント)を冠動脈内に埋め込む治療法です。最近では、血栓を吸引する方法も考え出され、ステント治療などと組み合わせることで実施され、効果が上がってきています。

吹田市医師会

小川 おがわ

久雄 ひさお